コロナで培った危機管理のスキルを風化させない

実践型訓練をすべての看護局職員で実施し、さらに診療技術局※にも拡大

地方独立行政法人　総合病院　国保旭中央病院

国保旭中央病院は、千葉県北東部地域で唯一の高度急性期機能を有する第二種感染症指定医療機関です。新型コロナの重点医療機関および協力医療機関にも指定され、積極的に新型コロナウイルス感染症の患者さんの診察に当たってこられました。コロナ有事を通じて、同院における感染対策の取り組みの変化などを感染対策室看護師長 佐々木優子様にお聞きしました。

また、後半では、実践型訓練『感染症クラスター対策定期研修』の「PPEの着脱訓練」「N95マスクフィットチェック」の様子を取材（2024年6月12日）いたしましたのでご紹介します。

感染対策室の活動内容

国保旭中央病院は地域の皆様の健康を守るために、常に研鑽に努め、医学的にも経済的にも適正な医療を提供することを理念とされています。

同院の感染対策は、医療関連感染を未然に防止するとともに、ひとたび感染症が発生した際は拡大防止に向けて、その原因を速やかに特定し、制圧、収束させるように努めていらっしゃいます。

前列左より：齊藤智久臨床検査技師、佐々木優子看護師長（感染管理特定認定看護師）、中津裕臣医師（感染対策室室長）、鈴木裕人薬剤師（感染制御認定薬剤師）
後列左より：五十嵐礼子看護師（感染管理認定看護師）、宮本頼子副看護師長（感染管理認定看護師）、阿部知子（看護師）、石川亜由子（事務）（敬称略）

感染対策室　活動概要	
委員会	院内感染対策委員会（開催頻度　1回／月）
ラウンド	ICT全ラウンド
	ICT接触予防策ラウンド
	ハイリスクラウンド
	フィールドチェック
	ASTラウンド
研修	院内感染対策研修会
	看護局対象感染症クラスター対策定期研修
	診療技術局対象N95マスクフィットチェック
	部署別勉強会
	委託業者対象研修会　等
施設基準	感染対策向上加算1
地域連携	診療報酬加算に係る連携施設 （加算3：6施設、任意参加：4施設）
	感染症災害地域連携会議　等

施設概要

病床数	989床（一般763/感染6/精神220）
標榜科目	40科
全職員数	2206人（2024年4月）
医師数	285人（2024年4月）
看護師数	1000人（2024年4月）
外来患者数	2337人/日（2023年度）

※ 診療技術局：同院の医師・看護師・薬剤師以外の医療技術職から成る11部署を統合し、2012年4月に設置されました。検査部門、放射線・臨床工学部門、リハビリ・歯科部門、栄養・相談支援部門の4部門で構成され、国家資格を有する約300人が所属されています。

コロナ有事を経験して

佐々木看護師長にお聞きしました

感染対策室 看護師長
感染管理特定認定看護師
佐々木優子 様

コロナ前とコロナ後、感染症に関する施設の取り組みに変化はありましたか？

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の流行を機に対策本部の立ち上げ、感染症BCPの作成などを通じて、危機管理が向上しました。当院は近くに成田空港があり、平素より感染症患者搬送訓練などを実施して備えていましたが、新型コロナの流行時は感染症病床が満床となり、感染症病床を拡大したほか一般病棟でも患者さんを受け入れました。

そのような経験から、看護局では、2023年度よりすべての看護局職員を対象に２類相当の感染症を想定したN95マスクのフィットテストを含む個人防護具（以下、PPE）の着脱やゾーニングについて実践型訓練を実施し、学んでいます。

さらに2024年度からは、研修の対象を診療技術局にも拡大することが院内感染対策委員会で決定されています。新型コロナは５類となりましたが、危機管理に対する意識が経時的に風化しないように働きかけ続けています。

貴院では、院内だけでなく感染防止対策地域連携カンファレンスも定期的に開催されていますが、どのような研修が行われているのでしょうか？

感染災害Webカンファレンスや連携カンファレンスにおいて、N95マスクを含めたPPEの着脱訓練を実施しました。新型コロナ発生当時は、必要な感染対策について十分な情報がない中で、手元にあるPPEの効果を最大限に活用できるように使用方法について検討し、部署ごとにPPE着脱手順や診察時、患者ケア時の感染対策についてレクチャーをしました。

また、動画を作成し地域の施設やクラスター派遣の際に教育ツールとして活用しました。

新型コロナの初期においては、PPEの不足が医療継続の上で問題となりました。コロナ禍はどのようにN95マスクの管理をされていましたか？

当院は第二種感染症指定医療機関であるため、日常的に結核の患者さんの受け入れをしており、その際、N95マスクの使用は「１勤務帯あたり１枚」としています。新型コロナは感染経路として接触もあったため「１回１枚」としました。しかしながら、流通の滞りを受け厚生労働省新型コロナウィルス感染症対策推進本部の「N95マスクの例外的取扱いについて」に準じてN95マスクの再利用もしました。

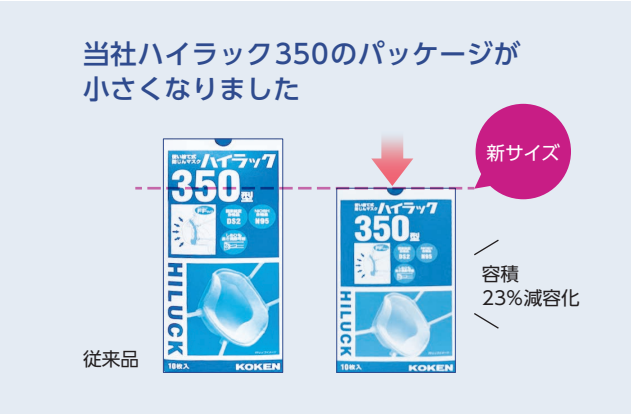
新しい情報に常にアンテナを張りながら、感染対策や運用方法を変更しフレキシブルに対応されておられたことが分かりました。N95マスクの流通が戻った現在、貴院では様々な種類のN95マスクを準備されていらっしゃいますが、実際に使用する職員の方はN95マスクをどのように選んでいるのでしょうか？

新型コロナの流行時は、N95マスクのメーカーや、排気弁付き／弁なしなど種類により使用方法の定義を設けていましたが、現在はマスクフィッティングテスターを用いてフィットテストを行い、自分に合う製品を使用するように推奨しています。

今後の感染症対策として国からは平時からの感染症対策の重要性が謳われています。医療従事者を守るためのN95マスク等のPPEについては2カ月以上を備蓄するよう推奨されていますが、貴院においても備蓄水準の見直しが行われましたか？

新型コロナの流行時は、平時の３カ月～６カ月分を備蓄していましたが、現在は国の方針に準じて２カ月分を備蓄しています。世界や日本の感染症の流行状況を鑑みつつ備蓄の追加も検討しています。

また、備蓄のための空間を確保することも課題になっているため、今回のハイラック350の減容化は助かっています。



実践型訓練❶ PPEの着脱

万が一を想定し、第一種感染症指定医療機関並みの「感染症クラスター対策定期研修」の様子

国保旭中央病院は第二種感染症指定医療機関ですが、インバウンドが増えたことや近隣に成田国際空港があることから、新型インフルエンザ等感染症や新感染症等の患者さんのウォークイン受診や搬送も想定して、平時よりPPE着脱やゾーニングの訓練をされています。

ペアワークで取り組む着脱時の相互補完
佐々木師長より「お互いの命の保証をしてあげてください」という声かけが講堂にひびいた

自身では気づきにくい装着ポイントなどが細かく指導される

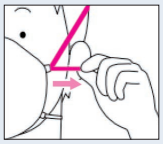
PPEは着てから脱いで手指衛生が完了するまでの手順について細部にわたり指導される

着脱訓練、フィット測定で用いたN95マスク

N95マスクは、高性能フィルタを用いるとともに顔にフィットすることで微小なサイズのウイルスや菌の吸入を防ぐことができます。

感染対策用N95マスク ハイラック350

FF（フリーフィット）リップ



しめひもの長さを調整できます

ハイラック専用サイト
（医療機関向け）

実践型訓練❷ ゾーニング

ペアになって、事例の施設図面の動線を見ながらゾーニングを検討し、ポイントごとに必要な手指衛生、PPEの選択を考える

実践型訓練❸　N95マスクのフィット測定

２種類のN95マスクの定量的フィット測定をN95マスクメーカーが協力して実施しました

N95マスクの選定については、マスクフィッティングテスターを用いてフィット測定を行い、ご自身の顔に合う製品を使用するように推奨されています。

N95マスクのフィット測定前に改めてハイラック350の着脱を行い、手技を確認

フィット測定の漏れ率が５％以上の場合は、着脱の再教育を実施しました

当日は看護局職員約40人の皆さまが研修に参加されました。ハイラック350のフィット測定を行った職員は、全員が漏れ率基準（５％以下）を１回でクリアされ、かつほとんどの方が１％前後の低い漏れ率でした。まさに感染対策室の皆さまと、我々マスクメーカーの協力によって得られた実践型訓練の成果となりました。

フィット測定をおこなった当社千葉営業所の営業担当より、測定結果について、一人ひとりに説明し、納得してもらう

実践型訓練を主催された国保旭中央病院 感染対策室の皆さま

看護師長の佐々木優子様を中心に、抜群のチームワークで989床の総合病院の感染対策に取り組んでいらっしゃいます。

2016年に当誌CHSニュースで感染管理体制やN95マスクのフィット教育の様子を取材させていただきました。当時感染対策室の看護師長でいらした五十嵐礼子様は、現在は現場をよく知る頼りがいのある大先輩として、後輩の育成にもご尽力されています。同じく、当時感染管理認定看護師でいらした宮本頼子様は、副看護師長として感染対策室でご活躍されています。

左より：副看護師長・宮本頼子様、看護師・阿部知子様、
看護師長・佐々木優子様、事務・石川亜由子様、看護師・五十嵐礼子様

取材を終えて、佐々木看護師長からコメントをいただきました

感染症の流行や自然災害の発生など感染対策の必要性は高まっています。感染対策に係る職員のみではなく、現場の職員が医療従事者として必要な感染対策の知識や技術を習得できるように、今後も支援を継続していきたいと思います。